東急田園都市線駒沢大学駅公園口上家





■建築概要

所在地	**東京都世田谷区上馬4-3**	**施設用途**	**駅舎（出入口上家）**
構造・階数	**地上１階　鉄骨造**	**延床面積**	**約５３㎡**
事業費	**３１，５７０千円**	**木工事費**	**２２，４００千円**
工期	**令和６年２月～令和７年３月**	**設計者**	**株式会社交建設計**
施工者	**東急建設㈱**	**木材供給者**	**㈱小池住建,㈱鉾田製材所,㈱東山木材**

■施設の概要・特徴

東急電鉄㈱では「サステナブル」な地下駅を目指し、田園都市線の５駅（池尻大橋駅・三軒茶屋駅・駒沢大学駅・桜新町駅・用賀駅）のリニューアルプロジェクト「Green UNDER GROUND」を進めています。プロジェクトでは設備更新工事とあわせて、「脱炭素・循環型社会」の推進や、地域とつながる駅空間と「サステナブルな地下駅」の実現を目指しています。第一弾となる駒沢大学駅は、駒沢オリンピック公園・駒澤大学の最寄り駅であるという特性から、全国から多くの利用者が訪れ目に触れる立地です。それらの施設に最も近く、また最も利用客数が多い公園口にて、茨城県産材を活用しております。

■使用した木材や工夫した点

地下駅の出入口は、視認性が悪く出入口がどこにあるか分かりづらいという課題を抱えています。しかし、駒沢公園口の上家（※１）については、施工条件から建て替えが困難な状況でした。そこで、仕上げ材を木材に置き換えることで、木材の温かみを活かし、周辺と調和しながらも、従来よりも駒沢オリンピック公園との親和性も高め、大きく印象を変えることが可能となりました。上家天井に使用している木材は木の節が少ないものを選定しており、なめらかで美しい仕上がりとなりました。

樹種	使用量（うち県産材）	使用部	備考
スギ	3.68㎥（3.68㎥）	羽目板	
ヒノキ	0.45㎥（0.45㎥）	フェンス	DLT
計	4.13㎥（4.13㎥）	-	**国産材の炭素貯蔵量(木材全体)** 3t-CO2 (3t-CO2)

駅出入口は多数のお客さまがご利用になる施設であることから施工時間・環境の制約が大きく、作業内容によっては終電から初電の短い間での作業に限定されます。そのため、将来的な補修を行う際の施工性、維持管理のし易さに優れ、且つ耐久性も期待できるような仕上材の選定を行いました。駅の室外機を隠すための外部フェンスには木ダボ（※２）のみで接合されることにより取外しが容易で且つ再利用可能な積層材DLT（※３）を採用し、さらにAZN乾式防腐処理（※４）を施し長期的な使用を可能としました。このAZN乾式処理も人体に無害で再利用に向いている材料であることを確認しています。

(※1)駅などで、旅客を雨露から守るために柱に屋根をかけた構造物
(※2)ネジや釘を使わず、木材同士を継ぎ合わせる際の円筒形の木の棒
(※3)木ダボを用いて板材を積層した木質部材
(※4)防腐性能を長時間持続させる水を使わない処理